

V119a SKA1 サブプロジェクト報告 2025 春

新沼浩太郎 (山口大学), 赤堀卓也, 本間希樹, 町田真美 (国立天文台), 市来淨與 (名古屋大学), 他国立天文台水沢 VLBI 観測所 SKA1 サブプロジェクト

Square Kilometre Array 第一期 (SKA1) 計画の国内外の進捗を報告する。世界ではメンバー国が 12 ヶ国 (インドとカナダが追加) に増え、フランス・スウェーデンも手続きが進み、韓国も予算化が進みつつある。初期アレイ AA0.5 の建設は全体的には順調である一方、SKAO 評議会の議長が任期満了で Filippo Zerbi 氏へと交代し、SKAO の科学部局長 Robert Braun 氏と運用部局長の Lewis Ball 氏の退職が 2025 年中に迎えるため、体制に変化が起きる。2025 年は SKA General Science Conference の開催と SKA 科学白書の出版を控える。国際 SWG への参加者は 1600 名を超え、SKA への世界的な期待はさらに高まっている。SKA Regional Centre Network (SRCNet) では、最初のリリース v0.1 が行われる予定であり、いよいよ世界最大規模の学術情報クラウドが動き出す。

日本国内では、コミュニティと密に連携しながら、国立天文台 SKA1 サブプロジェクトが日本の SKA 計画への参加の準備を進めている。2028 年度までに大型予算を獲得するという新たな参加計画を、コミュニティシンポジウム等で合意を得ながら策定した。またコミュニティの協力を得ながら競争的資金の獲得にも努力し組織の強化を図っている。引き続き科学では SKA 先行機を使った研究と奨励を進め、SRC は v0.1 への参加を行う。技術では次の 3 年間程度で日本が国際的に表明してきた AIV の活動がピークを迎えるため、AIV への参加の上積み計画し、それに合わせた新たな覚書の締結を準備している。他にも日本の計画参加に向けて受信機、デジタイザ、VLBI などの技術貢献の準備を進めた。広報活動では、普及活動の一環としてサブプロジェクトの Web ページや X を開設し、情報展開に努めた。